

### 3 患者参加による夜間透析総合避難訓練の経験と考察

JA 長野厚生連北信総合病院 透析室

牧野美代子 田中由恵

#### 1 はじめに

災害が続く今日、透析中の透析回路からの離脱・避難は透析室において重要な課題です。離脱と避難が無事行える為には、指導と訓練が不可欠であり、当院では H15 年より緊急離脱模擬訓練に取り組んでいる。今回病院全体の夜間総合避難訓練に合わせて患者参加による透析離脱と避難訓練を行ったので報告する。

緊急透析離脱法には、止血ベルト法・キャップ法・ペアンはさみ法・セイフティカット法・回路クリップ法などいろいろある。当院では、H14 年より透析中患者が自力で回路の接続を外し切断せずに離脱ができ、再接続が出来るルアーロックコネクター付透析回路を使用開始している。

#### 2 経過

##### 1) H15 年 9 月

模擬離脱訓練実施

(抜針せずに返血し回路を外す)

H15 年 10 月

アンケート調査。

##### 2) H16 年 11 月

H15 年と同様に模擬離脱訓練実施。

##### 3) H16 年 11 月 19 日

夜間総合避難訓練実施（実際の透析治療中に透析離脱し透析室から避難の後、再度透析治療に復帰する訓練実施）

※その都度アンケート調査。

#### 【夜間総合避難訓練の目的】

透析中の火災発生に対し、患者の安全の確保と適切な対応が出来る。

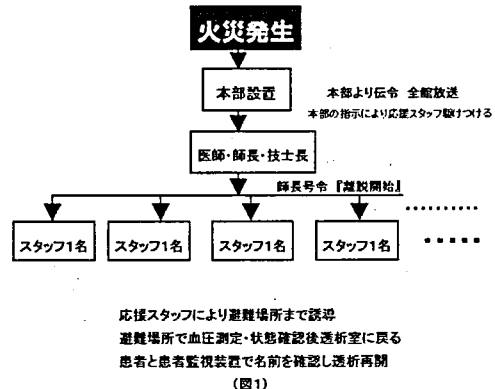
#### 【夜間総合避難訓練の目標】

- 1) 透析中の全患者が短時間で透析回路から離脱し、事故なく避難出来る。
- 2) 実際の離脱避難における手順等の問題点を明確にする。

#### 【夜間総合避難訓練の経過】

- 1) 訓練のマニュアル作成。
- 2) 訓練前にアンケート調査し参加は希望者とする。
- 3) 患者に避難訓練参加のお願い文を配布。
- 4) 緊急離脱模擬訓練実施。
- 5) 患者に「避難訓練の注意点」を配布。
- 6) H16 年 11 月 19 日夜間総合避難訓練実施。
- 7) 終了後患者、スタッフにアンケート調査。

#### 【訓練の実際】



牧野美代子 JA 長野厚生連北信総合病院 透析室

〒383-8505 中野市西 1-5-63 TEL 0269-22-2151

- 1) 火災発生→本部設置→本部より伝令が走ると共に全館放送→師長号令で離脱・避難開始。
- 2) 患者2名に対してスタッフ1名を配置、リーダー、器械責任など役割分担を事前にしておく。
- 3) 離脱後応援スタッフにより避難場所まで誘導→避難場所で血圧測定・状態確認後透析室に戻り→患者と患者監視装置で名前を確認し透析再開→血圧測定・状態確認→器械チェックし透析時間を延長し終了とした(図1)。

#### 【避難訓練後のアンケート結果】

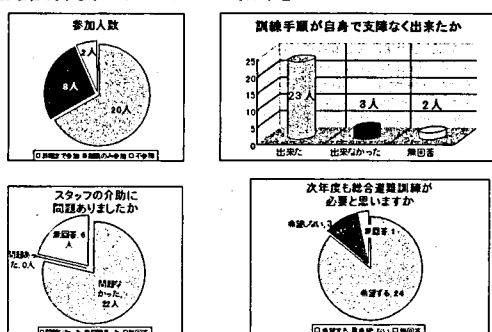


図2

参加者は、夜間患者30名中28名内8名は、人工血管、歩行障害ある人は離脱のみとした。緊急離脱が自身で支障なく出来た人は23名、出来なかった人は3名で、手に力が入らない人、片腕の人であった。来年も避難訓練を希望する人は24名であった(図2)。

#### 【患者の意見】

- 1) 離脱を実際やってみて身についてよかった。
- 2) 初めての事で勉強になった。
- 3) 病院の放送が聞こえづらかった。
- 4) いざと言う時どれだけのスタッフが対応出来るか心配。
- 5) 予想できる状況を想定した訓練が必要。

#### 【スタッフの意見】

- 1) 力のない患者は透析回路接続部が外しにくい。
- 2) A側のループが短い。
- 3) 透析回路接続部に血液が付着しシートが汚染した。
- 4) 全員に指示が伝わりにくかった。
- 5) 短時間に行うには患者2~3人が精一杯だった。
- 6) 役割分担が決めてありスムーズに行えた。
- 7) 患者、スタッフ共経験出来た事は良かった。

#### 3 結果

- 1) 透析離脱開始から復帰まで10分を要した。
- 2) 1人で出来ない人は、手に力が入らない人、片腕の人であった。
- 3) 避難放送が全員に聞こえにくかった。
- 4) 透析回路接続部がきつく1人で外すには大変であった。
- 5) 患者誘導がスムーズに行えた。
- 6) 指示がないのに離脱を始めようとした人がいた。

#### 4 考察

緊急透析離脱が1人で出来る人は、H15年9月73%、10月58%、H16年88%(アンケート前に訓練施行)と時間が経過すると忘れてしまい、繰り返し訓練をする事により1人で出来る事が分かった。この結果より緊急離脱訓練を定期的に繰り返すことが必要である。患者から細かい質問がないのは、スタッフに依存している為か、よくわからないためか検証されていない。

透析患者を無事離脱し、避難させるには現在のスタッフ数では制限があるため透析以外のスタッフの協力が必要不可欠である。その為、日頃より協力体制を明確にしておくことが大事である。訓練中でも精神的に動揺された患者がいたので精神的フォローを忘れず、患者の立場に立った訓練をしていく必要がある。

## 5 今後の課題

緊急離脱訓練、避難訓練を繰り返し行う必要がある。今回は、ADL に問題がない夜間透析患者のみ実施したが高齢者の多い昼間も訓練を行う必要がある。又、火災について訓練を実施したが、今後はあらゆる緊急事態を想定して総合的透析避難訓練実施が望まれる。

## 6 参考文献

- 1) 高木なつ子：透析室における確実な離脱訓練．県透析研究会 27．2003
- 2) 横川玉枝：透析患者及びスタッフの災害に対する意識調査．県看護研究 2002